

Common Nexus OPEN!



東海国立大学機構が掲げる「Make New Standards for The Public」を体現する場として Common Nexus（コモンネクサス）が名古屋大学東山キャンパスの中央にオープンしました。愛称は「ComoNe（コモネ）」です。

ComoNeは、名古屋大学・岐阜大学の学生や教職員だけでなく、近隣の方、子どもたちなど、すべての人に開放された探究空間です。



ComoNe
東海国立大学機構 Common Nexus

Common Nexusの特徴的な窪みのある大屋根を芝生広場とすることで、学生や近隣住民の憩いの場となる新たな「グリーンベルト」を再生しました。ComoNeの地下空間には、土や土壤にちなんだ名前を持つ個性的な空間が広がっています。土の中の世界のように、人々や異なる分野が出会い、交わり合うことで、ここに豊かな創造の土壌が育まれていきます。世代も領域も超えたつながりから、新しい交流や価値が生まれることをリードし、サポートします。

さあ、いっしょに。わくわくしながら未来づくりを楽しみましょう。

<https://comone.thers.ac.jp/>



～人と人、好奇心と好奇心がつながる、 “みんなのコモンズ”へ～



B1F 名古屋市営地下鉄 名城線名古屋大学駅

KIOSK
活動の合間に、一息つけるような軽飲食を取り扱います。

KOAGARI
その名の通り、小上がりになっているエリア。靴を脱いでくつろぐこともでき、イベント時には横造紙を広げたワークもできます。

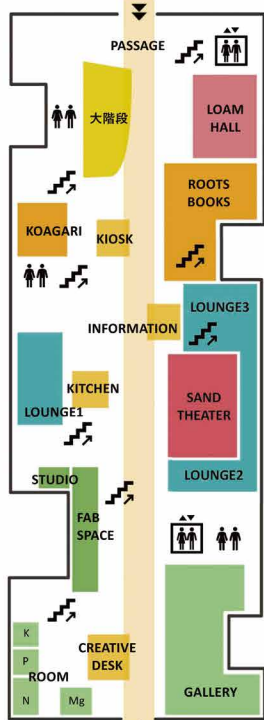


KITCHEN
キッチン設備が備わっており、調理が可能。食を通じたコミュニケーションをとることができます。

FAB SPACE/STUDIO
FAB SPACEは3Dプリンターなどの工作機器が設置される、モノづくりが可能なエリア。STUDIOは作品の撮影や動画撮影が可能です。

CREATIVE DESK
FAB SPACEの利用やROOMの貸し出しの受付窓口。

ROOM N・P・K・Mg
打合せなどに利用できる、ガラス張りの4つの個室があります。



名古屋大学中央図書館

LOAM HALL

大階段とあわせて150名まで利用できるエリア。オンライン配信も可能で、自由度の高い使い方ができます。



ROOTS BOOKS

大きな本棚が設置されているエリア。棚主として、自分のルートとなる本を並べて本棚を作ることができます。

INFORMATION

ComoNeの総合窓口。お困りの際には、スタッフが対応します。

LOUNGE1,2,3

会員限定でコワーキング利用が可能なエリア。Wi-Fiが完備されておりグループでも利用できます。

GALLERY

研究者とアーティストのコラボにより生み出される、STEAM作品を展示するエリア。東海国立大学機構の研究を発信します。

1F

PASSAGE

名古屋大学駅から中央図書館までを繋ぐ大通り（パッサージュ）。屋台を利用した発表会や作品展示など、お祭りのような空間が広がります。



ラーニングコモンズ

1階には各所にラーニングコモンズがあります。



ComoNe外観

イメージ図（上空から）



BRANCH

7つの個室はすべてガラス張りになっており、オープンな空間です。自由な使い方、活動できます。



SAND THEATER

階段形式になっており、60名まで利用できるエリア。大型ディスプレイを使用したイベントが実施できます。

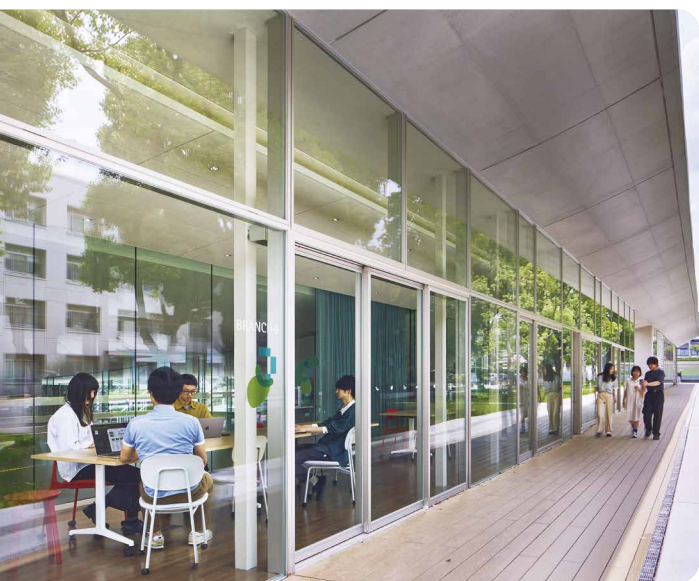


ブリッジ

吹き抜けの部分から地下1階の活動の様子を見渡すことができます。



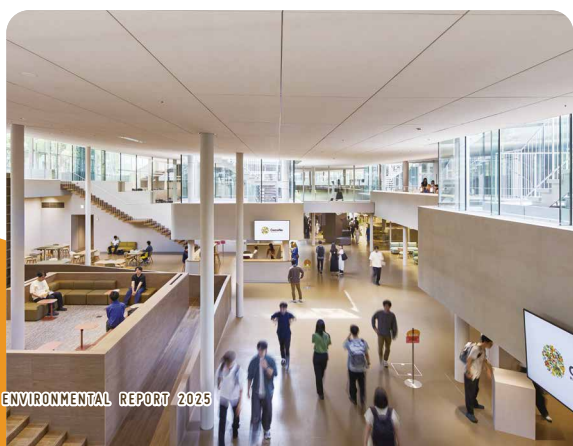
Common Nexusとは？



「Common Nexus（コモンネクサス）」は、東海国立大学機構の研究成果や教育資源等を公共財として広く社会の人々に発信することで、イノベーションを継続的に共創し、社会の課題解決を含む社会の発展に寄与する活動を支援するための施設として、2025年7月にオープンしました。

施設名の"Common"は共有知、"Nexus"はつながり、絆、集合体、ネットワークを指しており、共有知(Common)のネットワーク(Nexus)が生まれる場となるよう思いを込めて名付けられました。愛称は「ComoNe（コモネ）」です。

それぞれの個性を持った個人／団体が集い、出会いや交流、互いの協力によるつながりが生まれることで、一つの共通の場（=Common Nexus）を形作り、立場や活動領域を横断した多様な人々が交わる拠点を形成しようと考えています。



2022年、文部科学省から「イノベーションコモンズ（大学のみではなく公共財として社会に広く開かれたオープンイノベーションの場、共創の場）の構築」とする方針が打ち出されました。

また、東海国立大学機構ビジョン 2.0 (Make New Standards for The Public：知とイノベーションのコモンズ)を体現し、東海国立大学機構の教職員や学生が積極的に関わり利用することはもちろんのこと、これまでの国立大学の閉じたイメージを払拭して、大学に関わる多様な人々や行政、産業界、市民等との自由闊達な交流から新たな価値=New Standardsが共創されるような場をつくることを基本的な目標とし、このCommon Nexusプロジェクトはスタートしました。



Common Nexusの環境対策

Common Nexusの建物は地下1階・地上1階建て、面積は7,313m²で、地下鉄名古屋大学駅から名古屋大学中央図書館までのスペースに位置し、地下鉄駅から建物内に直接アクセスできるだけでなく、周辺の文理系の建物から様々なルートでもアクセスを可能にし、多様な人々の出会いが生まれることを期待しています。

この土地はかつて谷戸（やと）と呼ばれる谷地形であり、谷戸の湧き水が田畑を潤し尾根にある薪炭林が人々の暮らしを支える循環型社会が構築されていました。名古屋大学の開学以降には、豊田講堂から中央図書館へ続く緑地は「グリーンベルト」と呼ばれ、クスノキの並木通りや芝生広場は学生や近隣住民の憩いの場となっていました。この土地が持つポテンシャルを最大限に生かし、建築的要素を最小限とすること

で、人と自然が共生する環境を再生しました。Common Nexusの特徴的な窪みのある大屋根は、かつての谷戸地形を想起させる緩やかな勾配を設けた芝生広場とし、学生や近隣住民の憩いの場を再現することで、機構の新たな「グリーンベルト」として象徴的な空間となりました。



半地下構造の建物側面の大きな窓は、森の木漏れ日のような間接的な採光を可能にするだけでなく、地上から建物内の活動を可視化することで、興味を促し、人々の交流や学びの循環を促進させます。この大きな窓は二重構造となっており、断熱性や遮音性を高めるだけでなく、温度差による自然換気システムにより、環境負荷を低減しています。その他にも、高断熱や高性能窓、LED照明並びに高効率熱源機器、節水器具の導入などの基本的な省エネ性能を確保することで、脱炭素化を見据えた環境配慮型建築としてZEB Ready※を達成しています。



※ZEB: Net Zero Energy Buildingの略称で、省エネと創エネで建物の年間エネルギー消費量が正味ゼロを目指す建物のことです。
[ZEB Ready]は、従来建物の年間エネルギー消費に比べて50%以上削減できる建物のことです。

Common Nexusでの共創のしくみ

Common Nexusでの活動は、単に社会問題を解決するだけでなく、芸術文化、ビジネス、研究も掛け合わせた領域横断的な展示やプログラムを通して、地域や公共のための新しい公益のカタチ=未来の当たり前を生み出し、広く世界へ発信していきます。Common Nexus専任スタッフのもとで、施設全体の活気ある運営を図りながら、新しい形のコミュニケーションスペースを作り、Common Nexusに集まる学内外の多様な人たちが、新たな価値を共創するために、「3つの特徴 (Program, Museum, Commons)」をもとにした展示やプログラム等の活動を行います。



Common Nexusは、東海国立大学機構の研究成果や教育資源等を広く社会の人々に発信することで、イノベーションを継続的に共創し、社会の課題解決を含む社会の発展に寄与する活動を支援していきます。New Standardsを生み出す土壌となるComoNe (コモネ)のあり方を示しながら、開かれた「コモンズ」として今後のキャンパスを創造する端緒として、多様な人々の好奇心を探究する施設を目指していきますので、ご期待ください。

建築設計者による建築プレゼンとトークセッションを開催



Common Nexus建築関係者向け内覧会が2025年6月21日に開催され、建築設計者の小堀哲夫氏(株式会社小堀哲夫建築設計事務所)によるCommon Nexusの特徴的な建物形状の設計意図の説明や建築ツアー、トークセッションが行われました。

空に開かれた可能性の余白、生命基盤としての谷戸の地形に倣ったランドスケープ、木漏れ日の中の学びの空間、変化し続けるプラットフォーム、光・風・緑を感じる半外部のような地下空間のコンセプトを中心とした説明に、参加者が理解を深めていました。